

## 入選

### コウノトリのお家

福井県 神山小学校 三年  
山腰 萌依

「うそっ、4羽も？」

夏休みのある日、いつものように家のまわりの田んぼをながめていると、4羽ものコウノトリがいっしょにいるのを見つけました。去年から、家のまわりによくコウノトリが来るようになりましたが、4羽も集まっているのははじめてです。

私は、あわててお母さんからスマホを借り、写真をとりました。コウノトリは、カタカタカタとくちばしをたたいて、カスタネットのような音をたてました。まるで、おしゃべりをしているようです。田んぼの中に顔をつっこんで、ずっとエサを食べている鳥もいます。

そのうち4羽は、道路になかよく整列しました。そんなすがたをながめていると、コウノトリたちが、だんだん私の4人の兄妹に見えてきて、私はあるできごとを思い出しました。

私が2年生のころ、体育のじゅぎょうでポートボールをしていたとき、友だちからルールのことについてせめられ、ないてしまいました。一度はなきやみ、なみだをこらえて家に帰りましたが、お母さんの顔を見たとき、なみだがボロボロとあふれてきました。何か話そうと思うけれど、なみだが止まりません。

そのうち、三番目のお兄ちゃんが学校から帰ってきました。しばらくだまって私を見ていましたが、急に目の前で、「へん顔」をしました。ないている私を、わらわそうとしてくれたのです。でも、なみだは止まるどころか、私はますます大きな声でないてしまいました。

すると、一番目と二番目のお兄ちゃんも、どうした、と集まってきました。

「わーん。」

私は、赤ちゃんみたいになきました。もうなぜないているのか、わからなくなりました。3人のお兄ちゃんたちとお母さんは、私がなきやむまで待ってくれ、私の話を聞いてくれました。そして、少しずつ落ちついてきた私は、あんなに悲しかった学校でのできごとが、大したことのないように思えてきました。

次の日、私はすっかり元気になって学校に行きました。あのとき、なぜあんなになみだが出なくなってしまったのだろう。今思えば、わらわせてきた3番目のお兄ちゃんのやさしさや、心配してくれる上の2人のお兄ちゃんのやさしさがうれしかったからかな、と思います。

私は、元気が出ないとき、『しあわせを運ぶ』と言われているコウノトリを見かけたら、きっと今日はいいことがあるぞ、と気持ちを高めていました。でも、4羽のコウノトリを見て、「この家にいる私がしあわせ」なんだと思うようになりました。私が、毎日笑顔ですごせるのは、家族から元気をチャージしてもらっているからだと思います。

まどから外をながめると、今日もコウノトリがやってきていました。もしかするとコウノトリは、わが家のようなにぎやかな声のするところに、集まってきているのかもしれない。

「おかえりなさい、コウノトリ。」